

ティーチング・ステートメント

所属 工学部 機械工学科

名前 平元 理峰

作成日 2024年2月26日

【責任】

1年生ではエネルギー工学入門、機械力学基礎実験、2年生では機械の応用Ⅳ、3年生では機械工学の主要力学の1つである流体力学と、レポート作成力を養う機械工学実験、協働活動を多く含む日本語表現法Ⅳ、ラボセミナー（プレ卒論）、および4年生で卒業研究を担当している。

【理念】

社会に出て活躍していくためには、得意なことを伸ばすことが重要であり近道であると考えられる。「好きこそものの上手なれ」と言われるように、興味を持ち、理解して、好きになって、自ら学ぶようになれば、自然と得意になっていくと期待される。このことは私自身の経験から得たものであるが、誰にとっても当てはまるものであると信じていることである。また、得意なもので活躍していくために、実際には社会や組織の中で他人と協調・協働していく必要があるがその中で適切な行動がとれ信頼されるようになるために、常識や責任感をもった人材となる必要がある。社会に出る直前の大学生には、学問以外にも、このような素養を身につけられる体験をしたり、社会で活躍している卒業生の大学時代の経験や、社会人になってからの経験を知る機会を提供したい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、授業やゼミにおいて以下に述べるような方針に基づき活動していきたい。

「興味をもち、好きになり、自ら学び、得意になる」

- ・ 専門知識を学ぶ際に、それがどのように世の中で役立っているのか、または、将来どのような世界に繋がっていくのかを想像して、興味・関心をもつような授業に努める。そのためには、図表・動画を活用して、イメージがし易くなるように工夫する。
- ・ 少し難しい学問・知識だとしても、それを努力して理解する成功体験の積み重ねによって、面白さややり甲斐が見いだされるような授業と自主学修の機会を提供する。そのために、講義で使用したスライド（資料）を UNIPA に掲載し、いつでも復習に活用できるようにするとともに、講義毎に演習課題を与え、受け身から自発的な姿勢への転換のきっかけを提供する。

「常識と責任感を兼ね備え、協調・協働できる人材を育成する」

- ・社会で一番重要なことのひとつであろう仕事の納期（期限）を強く意識させるため、課題の提出期限などを厳格に扱う。
- ・チーム（組織）で活動する場合には意思疎通が非常に重要であり、先輩や上司がいればハウレンソウ（報告、連絡、相談）ができることが必須である。ゼミなどでは、これを徹底して、当たり前に行えるようになってもらう。
- ・良い仕事をやり遂げるには少々の困難はつきものである。それを乗り越えるタフさを身につけるためにも、課題等に取り組む場合には、個々の能力を伸ばすような負荷を与えたい。
- ・一つの仕事を複数の人間が取り組む場合、人数の分だけ成果が増えるということに甘んじるのではなく、互いを刺激し合うことによって相乗効果により、より多くの成果を導き出せることを経験する機会を提供していく。

【成果・評価】

- ・1年生前期のフレッシュマンセミナーにおいて、数週間にわたって取り組む「ものづくり」のグループワークを導入したが、それが継続されている。実際の企業活動（マーケティング、設計、製造、コマーシャル等々）を想定することによって面白さを感じられるとともに、協調・協働の大切さを実感できるプログラムとなった。（エビデンス：出来上がった作品、プレゼン資料、アンケート結果）
- ・プレ卒論における札幌近郊の企業との問題解決プログラムに参加し、チームとして一つのことに取り組み、企業の期待以上の成果を導くことができ、感謝されるまでに至った。（エビデンス：プレゼン資料、アンケート結果）
- ・卒業研究の内容を学会で発表させた。オンラインプレゼンテーション賞を受賞した。
（日本設計工学会北海道支部 研究発表講演会にて、2020年度、2021年度、2022年度）

【目標】

- ・日本機械学会北海道支部学生会の卒業研究発表講演会に、全ゼミ生が参加できるように卒業研究を充実する。（2024年度以降継続的に）
- ・学生の理解度、ひいては満足度が上がり「得意」につながる授業コンテンツ（図、写真、動画、実践的な演習課題とその解説）の充実を図る。（2024年度以降継続的に）